

## <令和8年度 学校経営方針>

### 学校教育目標

「次代と未来を創る 醍醐の子を育てる」  
～自ら学び、共に支え高め合う子ども～

#### 「次代と未来を創る」とは、

豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創造していくことである。

確かな学力・豊かな心・健やかな体を身につけることで、夢や希望を持ち、それらを選択することができる姿を目指す。

#### 「自ら学び」とは、

自分から課題をもち、学ぼうとし、学んだことを発信することである。

#### 「共に支え高め合う」とは、

互いのことをよく知り、同じ目的に向けて、相手のよさを認めながら協力することで、一人では達成できないことも仲間と共に切磋琢磨して達成し、自己有用感や自己肯定感を高めていくことである。

### <学校経営方針>

- 1 わかる・できる・楽しい学校
- 2 一人一人の子どもに寄り添う学校
- 3 心も体も安心安全に過ごせる学校

#### 1 わかる・できる・楽しい学校づくり

楽しさは学びの原動力である。楽しさは自主的に学習し、持続することにつながる。学びが持続すれば定着し、さらに高みを目指そうとする姿が生まれる。

楽しさの一つは、「学習がわかる」「できなかったことができるようになる」ことであり、「わかった」「できた」という実感を得られる授業づくりが重要である。そのために、授業力・指導力向上のための自己研鑽に努める。

もう一つは友達と過ごす楽しさである。一人ではできないことをみんなでやり遂げた経験を通して、「みんなのできた」という達成感や、人と人との関わりが楽しいと実感できる経験を重ねる。

#### 2 一人一人の子どもに寄り添う学校づくり

子どもの抱える現実には厳しい。不透明な将来、虐待、不登校、倦怠感など、子ども自身もどうしてよいかわからない課題が存在する。子どもの背景も多様である。だからこそ、子ども一人一人の見取りを丁寧に行う必要がある。

見取りの力には個人差があるため、「多くの目（全教職員）で一人の子を見る」ことが重要である。子どもの思いを受け止め、その子に応じた道筋を示すことで、教師の価値観を押し付けることなく、力量に応じた成長を支える。

「学校には私の居場所がある。必要とされている。」と子どもが感じられる学校・学級づくりを進める。

#### 3 心も体も安心安全に過ごせる学校づくり

「子どもの命を守りきること」「教育環境を整えること」を最重要とする。子どもが自ら命を絶つこと、命が

失われることがあってはならない。全教職員が「子どもの命を守りきる」意識を強く持ち、危険箇所の把握やリスクマネジメントを徹底し、防災防犯対策を進める。

また、子どもが安心して過ごせる学級・学年づくりを目指す。心の悩みは多様であり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携して対応する。一人一人に応じた居場所を確保し、保健室とも連携しながら、心身ともに健康に過ごせる取組を進める。

#### <目指す学校像>

- 1 笑顔あふれる楽しい学校
- 2 子供に夢や希望を与える学校
- 3 安心安全で地域に開かれた学校

#### 1 笑顔あふれる楽しい学校

笑顔には、緊張を和らげ、気分を高揚させ、相手との距離を縮める効果があるとされている。心に余裕がなければ笑顔は生まれない。子どもから笑顔が消えたときは注意を要する。

日常の教育活動を通して、常に子どもの笑顔が見られる取組を進め、子どもが「学校が好きだ」と感じられる学校づくりを行う。

#### 2 子どもに夢や希望をあたえる学校

子どもが将来を見通す力を育てることはキャリア教育につながる。学年ごとの積み重ねを大切にし、出口を意識した系統的な取組を推進する。

将来展望をもつためには、「確かな学力」が必要である。夢や希望がもてる学力を身につけさせることで、自らの可能性を広げる。

#### 3 安心安全で地域に開かれた学校

小学校を地域コミュニティの一部として位置づけ、社会に開かれた学校づくりを進める。地域の支えがあるからこそ、醍醐が好きなお子どもが育つ。

「地域のお子どもは地域で育てる。子どもは地域の宝」という考えのもと、見守り隊をはじめとする地域の協力を得て、安心安全な学校づくりを進める。

#### <目指す子ども像>

醍醐ブランドを自負し、醍醐プライドをもてる子ども

- 1 あきらめない子
- 2 やさしい子
- 3 たくましい子

#### 醍醐ブランドを自負し、醍醐プライドをもてる子ども

醍醐地域ならではのもの、醍醐小学校ならではの取組に自信と誇りをもてる子どもの育成を目指す。

#### 1 あきらめない子・・・「しんどいときのびるとき」

自分に合った目標をもち、その達成に向けた見通しを立て、努力と継続を重ねる。振り返りを通して次の目標を立て、自身を更新し続けることで、自己肯定感と自尊感情を育てる。

#### 2 やさしい子・・・「人権を大切にする子に」

感謝の気持ち「ありがとう」を言葉や態度で表し、また「ごめんなさい」と素直に伝えられる子を育てる。自分のやさしさに気づき、真心をもった言葉や行動が取れるようにする。

### 3 たくましい子・・・「心も体も強い子に」

基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守って活動することで、社会で生きる基盤を育てる。進んで運動に取り組み、心の悩みを話せる力を育成する。

#### <目指す教職員像>

- 1 チーム力を発揮できる教職員
- 2 子どもにかかわりきる教職員
- 3 保護者・地域から信頼される教職員
- 4 学び続ける教職員
- 5 心身の健康を大切にする教職員

#### 1 チーム力を発揮できる教職員

醍醐小学校に関わるすべての人が互いを尊重し、心理的安全性の高い組織づくりを進める。一人一人が学校にとって欠かせない存在であるという意識を共有し、助け合いながら学校づくりを行う。

#### 2 子どもにかかわりきる教職員

子どもたちが安心して活動できる学校にするためには、子どもたちの安心できる学級経営・学年経営が基盤となる。そのためには、学習規律や人間関係を築くための様々な手立て・支援が必要である。子どもの困りに目を向け、最後までかかわりきれるように、教職員集団として取り組みたい。

#### 3 保護者・地域から信頼される教職員

学校教育は、学校だけで完結するものではなく、保護者や地域との信頼関係の上に成り立つものである。教職員一人一人が教育に携わる公務員としての自覚をもち、法令遵守と責任ある行動を心がけることが重要である。心のこもったあいさつや丁寧な言葉づかい、誠実な対応を積み重ねることで、保護者・地域から信頼され、共に子どもを育てる関係づくりを進める。

#### 4 学び続ける教職員

教育を取り巻く環境や社会の変化が急速に進む中において、教職員には常に学び続ける姿勢が求められている。学びの内容や方法は一樣ではなく、これまでの経験や置かれている立場、課題に応じて異なるものである。

日々の授業や学級経営、子どもへの対応といった実践そのものが学びであり、振り返りや対話を通してその質を高めていくことが重要である。また、経験のある教職員の知見に学んだり、新たな視点や工夫から刺激を受けたりするなど、互いの実践に学ぶ関係性を大切にする。

研修や自己研鑽に加え、OJTや授業公開、相談や助言といった学び合いを通して、個人の成長を組織全体の教育力向上へとつなげる。

#### 5 心身の健康を大切にする教職員

教職員一人一人が心身ともに健康であることは、子ども一人一人と丁寧に向き合い、質の高い教育活動を継続するための基盤である。働き方や健康状況、家庭環境が多様化する中で、互いの状況を認め合い、無理を重ねない働き方を大切にする。忙しさや困難を一人で抱え込むのではなく、互いに声をかけ合い、支え合える関係性を大切にする。

タイムマネジメントを意識し、制度を正しく活用しながら、働きやすさと働きがいとを両立させ、教職員自身のウェルビーイングを大切にし、持続可能な教育活動を行う教職員集団を目指す。

# 次代と未来を創る子ども醍醐の子を育てるために

## ～知・徳・体の一体的な育成～

### 知＝「確かな学力」の育成

- ① 「生きる力」を育む学びの推進
  - ⇒意欲的に学ぶ集団作り＝学習活動の基本となる姿勢（学びの約束やルール）
  - ⇒社会とのつながりや分かる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業
  - ⇒指導と評価の一体化
  - ⇒教育課程の見直し・充実
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実
  - ⇒実感を伴った知識・技能の習得→調べ学習・観察・実験・レポートの作成等
  - ⇒基礎的読解力・数学的思考力・情報活用能力等の資質・能力の育成
  - ⇒ICT 機器等の日常的・積極的・効果的に活用した学習活動の一層の充実
    - 教職員自ら生成 AI や情報モラルに係るリテラシーの涵養に努める
  - ⇒思考力・判断力・表現力の効果的な育成
  - ⇒「言語活動」の発達段階に応じた設定と内容の充実
  - ⇒学習課題に応じた「まとめ」と「振り返り」の徹底等
  - ⇒学校図書館の活用→学習・情報センター、読書センターとしての位置づけ
- ③ 探究活動・京都ならではの教育の充実
  - ⇒自らの課題や疑問点を設定し、調べ、解決しようとする過程が繰り返される探究活動の充実
  - ⇒京都ならではの伝統文化教育・環境教育・食育・政治的教養を育む教育等
  - ⇒科学技術への興味関心の喚起と STEAM 教育の視点を取り入れた活動の推進
- ④ グローバル化時代に対応する実践的英語力の育成
  - ⇒異文化理解や他様な価値観を持つ人々と協働する力を育む
  - ⇒言語活動を通してコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成  
（低中学年：聞く・話すこと、高学年：聞く・話すことに加え読む・書くこと）
- ⑤ 発達障害を含む障害のある子ども一人一人の実態に応じた適切な指導と支援の充実
  - ⇒「個別の指導計画」等の活用（行動面だけでなく学力面への支援の充実）
  - ⇒子どもの実態の早期把握と個別に有効な指導方法の工夫や支援機器の活用

### 徳＝「豊かな心」の育成

- ⑥ 道徳教育の充実
  - ⇒「しなやかな道徳教育」の実践の推進
  - ⇒「道徳教育推進月間」を位置づけ、家庭や地域社会との共通理解、連携を深める
  - ⇒道徳的価値の理解を深める指導の充実⇒情報モラル・SDGs（環境・平和・人権等）
- ⑦ 伝統文化芸術等を通じ、豊かな感性・情操を育む教育の充実
  - ⇒茶道体験等を通じて、自らも伝統や文化を受け継ぐ担い手であることを実感
  - ⇒自然の偉大さや生命との関わりを感じ、考えさせる
- ⑧ 多様性を理解する姿勢の涵養
  - ⇒障害についての理解と認識を深める
  - ⇒手話・点字・ユニバーサルデザイン等に関する学習
  - ⇒民族や伝統・文化の多様性や違いを知り、国際協調の精神を培う活動

⑨ 発達支持的生徒指導の推進と規範意識の醸成

⇒あらゆる教育活動を通して発達支持的生徒指導を推進する。

⇒一人一人の子どもの自己指導能力の獲得のために「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安心・安全な風土の醸成」を意識した教育活動の推進

⇒自己実現につなげる指導⇒児童会等、子どもの主体的・自発的な活動を重視

⑩ いじめをはじめとする問題行動への対応

⇒「学校いじめの防止等基本方針」を理解し、初動段階から適切に組織対応を行う。

⇒非行防止教室の実施などによる情報モラルを含めた規範意識の醸成

⇒スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の専門職との連携や関係機関と課題を共有する。

体=「健やかな体」の育成

⑪ 運動やスポーツの実践と体力の向上

⇒運動に触れる機会を積極的に設ける→体育科・運動部活動・休み時間・放課後等

⇒組織的・計画的な安全管理・健康管理の徹底

⇒家庭・地域との連携を図りながら運動能力の維持向上を図る

⑫ 保健教育の充実

⇒自分自身の健康を保持・増進しようとする意識と実践的態度を育てる

⇒食事・運動・休養・睡眠の調和のとれた生活習慣の習得

⇒性に関する指導

⑬ 飲酒・喫煙・薬物に関する指導

⑭ 安全教育の充実

⇒「生活安全」「交通安全」「災害安全」の指導

⇒災害や学校内外での事件・事故を想定した対応訓練

⑮ 食に関する指導の推進

⇒自ら適切な食を選ぶ、食や人への感謝の心を育む

⇒伝統的食文化の継承や「地産地消（知産知消）」を推進

⇒食物アレルギー・アナフィラキシーに対する正しい知識に基づいた適切な対応